「平成３０年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立浩養小学校】

平成３０年４月１７日（火）に，小学校第６学年全児童，中学校第３学年全生徒を対象として，「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

１　児童が受けた調査について

「国語Ａ・Ｂ」，「算数Ａ・Ｂ」，「理科」，「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（１）教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語Ａ，算数Ａ，理科	〔主として「活用」〕 国語Ｂ，算数Ｂ，理科
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

（２）児童に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm

２　本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国語Ａ（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語Ｂ（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	A
算数Ａ（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	B
算数Ｂ（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	A
理科（知識・活用）	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	A

☆ 全国平均正答率との比較について

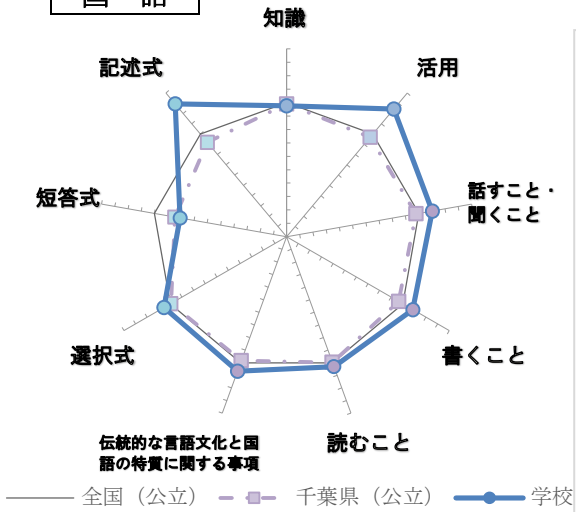
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

○ 国語Ａ（知識）は，全国平均とほぼ同じ正答率でした。

○ 国語Ｂ（活用）では，すべての観点で全国平均を上回り，全体で 13.3 ポイント全国平均を上回る正答率でした。

○ 「短答式」の形式において，全国平均よりも正答率が下回っていますが，「記述式」では，全国平均を 9.7 ポイント上回りました。

○ 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことが，よくできています。

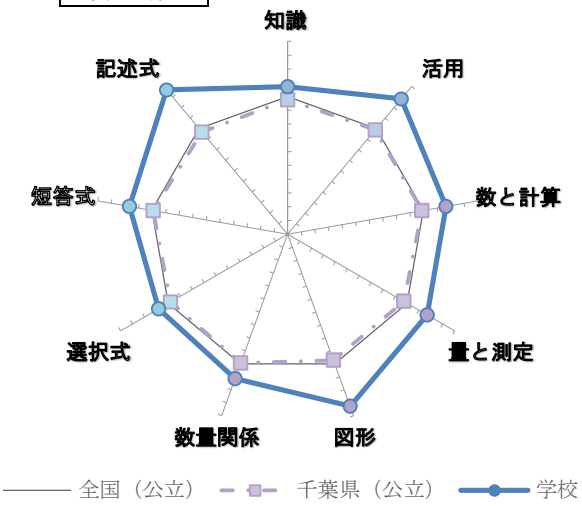
○ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むことに課題があります。

【改善方策等】

○ 漢字を文の中で正しく使うことは，よくできていました。学校でのドリル学習や家庭学習の成果が出ています。今後も「とみの国検定」や「月例テスト」の合格を目標にし，児童の意欲を継続させていくように努めてまいります。

○ 目的に応じて必要な情報を捉えたり，文章全体の構成の効果を考えたりする力が不十分でした。そこで，学校では国語科の学習に限らず，社会科や総合的な学習においても，目的や意図に応じて資料を引用したり，必要な内容を整理したりして書くことができるよう指導をしてまいります。

算　数



【特徴と現状】

○ すべての領域において，全国平均と比較して正答率が上回っています。算数 Ｂ（活用）では，全体で 14.5 ポイント全国平均を上回りました。

○ とくに「図形」の領域で正答率が高く，記述式で解答する問題にもしっかりと取り組むことができました。

○ 「数と計算」の領域では，小数の除法の意味についての理解に課題がありました。

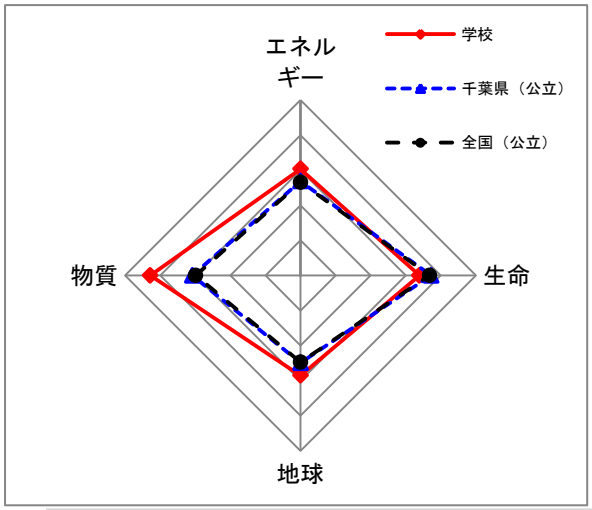
○ 「数量関係」の領域では，棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを，適切に判断することに課題がありました。

【改善方策等】

○ メモの情報とグラフを関連付けて考えたり，グラフから読み取れることを適切に判断したりする力が不十分でしたので，一つ一つの数値が何を表しているのかを丁寧に確認するようにしていきます。

○ 記述式の設問にもしっかりと取り組むことができており，無解答率は低いです。そこで，自分の考えを筋道立てて表現する力を伸ばしていくために，学習活動の中で，自分の考えをノートに言葉や図で表現し，それを友達に説明する活動を多く取り入れていきます。互いに考えを伝え合い，検討する活動を充実させてまいります。

理　科



【特徴と現状】

○ 「物質」の区分においては，全国平均を大きく上回る正答率でしたが，「生命」の区分は全国平均を下回っています。

○ 「観察・実験の技能」のろ過の適切な操作方法の問題は，100%の正答率でした。

○ 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ問題では，全国平均を下回りました。

○ 土地の浸食や電流の流れ方の問題において，予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して，実験を構想する力に課題がありました。

【改善方策等】

○「物質」に関する問題の正答率が高いのは，実験を通して主体的に学習しているからだと考えられます。今後も，実験を大切にした指導を充実させてまいります。条件をしっかりと整理した上で，実験を行うようにし，実験結果を基に分析して考察することができるようにていねいに進めていきます。何を検証するために実験をしているのかを常に振り返らせ，科学的な思考・表現力の向上に努めていきます。

○ 自然事象についての関心・意欲を高めていけるように，働きかけていきます。

（３）児童質問紙の結果及び分析

○ 「自分には，よいところがあると思いますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は，全国平均を上回っており，自己肯定感をもって生活している児童が多いことがわかりました。そして，全員が「将来の夢や目標を持っている」と回答しています。

○ 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」という質問に「よく見る」「時々見る」と全員が回答したのに対し，「新聞を読んでいますか」という質問には，７割の児童が「全く読まない」と回答しました。このように回答した児童は，文章の内容を的確に捉え，自分の考えを記述する問題を苦手にしている傾向が見られました。

○ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」という質問に全員が「そう思う」と回答しました。国語Ｂの「話すこと・聞くこと」の正答率は，全国平均値を大きく上回っています。

○ 「学校のきまりを守っていますか」「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「朝食を毎日食べていますか」「家で，学校の授業の予習・復習をしていますか」の質問において全国平均を大きく上回る肯定的な回答が見られました。

○ 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の質問には，７割の児童が「参加したことがない」と回答し，全国平均に比べて低い傾向にあります。

３　まとめ

○ 学校においては，今後も日頃の授業の充実に努めていくとともに，月例テストや「とみの国」検定を通して，漢字・計算練習に繰り返し取り組み，基礎的・基本的な学力の定着を図っていきます。

○ さまざまな場面において，互いの話を聞き，考えの共通点や相違点を整理しながら話し合いを進めていく力を身に付け，学び合いの学習をさらに充実させていきます。

○ 宿題や予習・復習にはきちんと取り組めているので，今後は自主学習にも取り組んでいけるように，自主学習の進め方などについて学校からも提案していきます。家庭との連携を図りながら，児童が自分で計画を立てて勉強をしていけるよう努めていきます。

○ 社会の情勢に興味・関心をもてるようにニュースを見たり，新聞を読んだりすることを推進していきます。また，地域の活動に参加する機会を増やす等，地域との交流を大切にしながら生活していけるよう支援していきます。